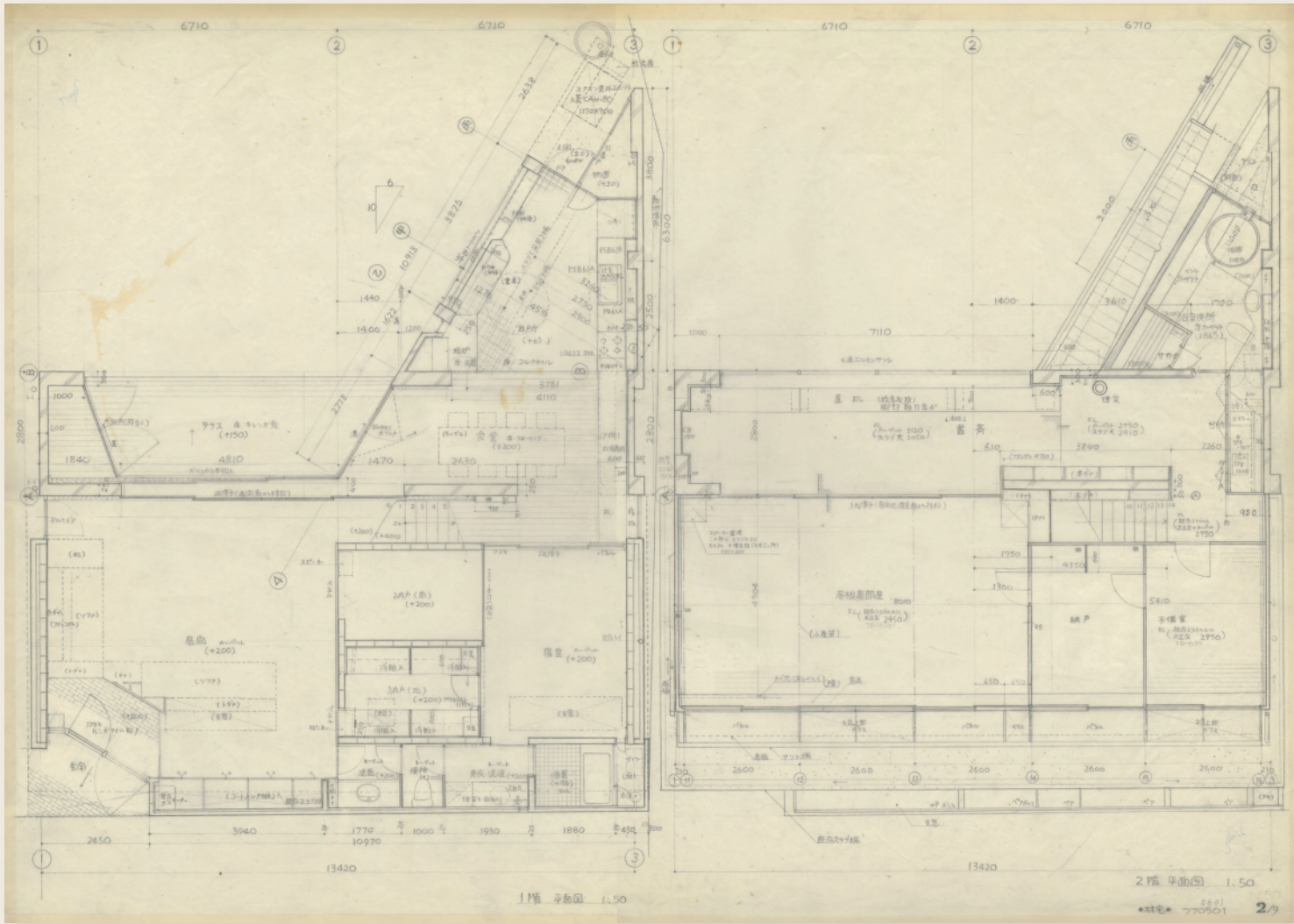
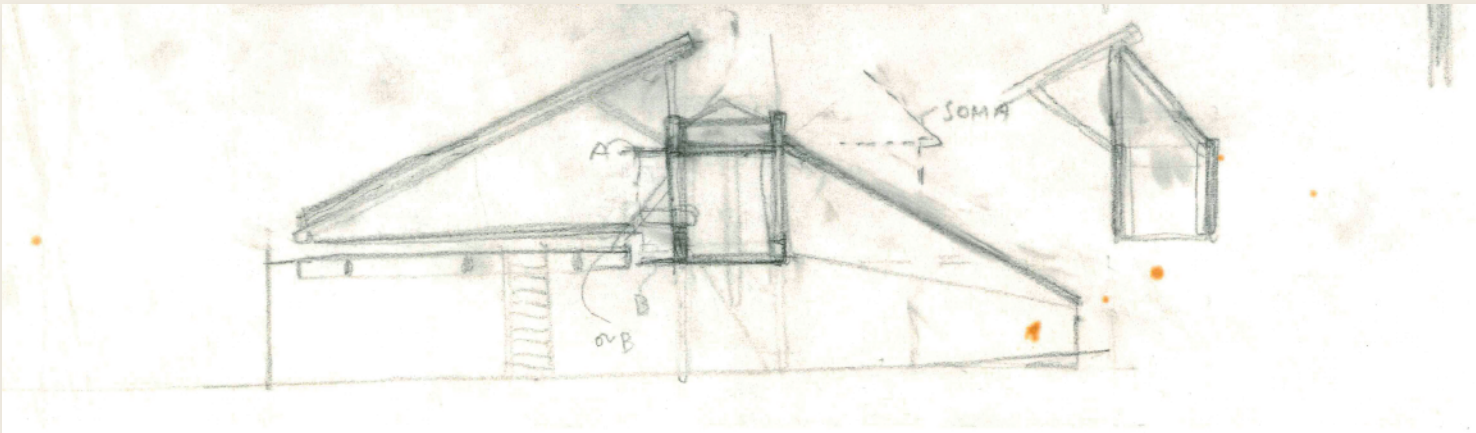


増改築時(1978年)の原図



第2期の平面図

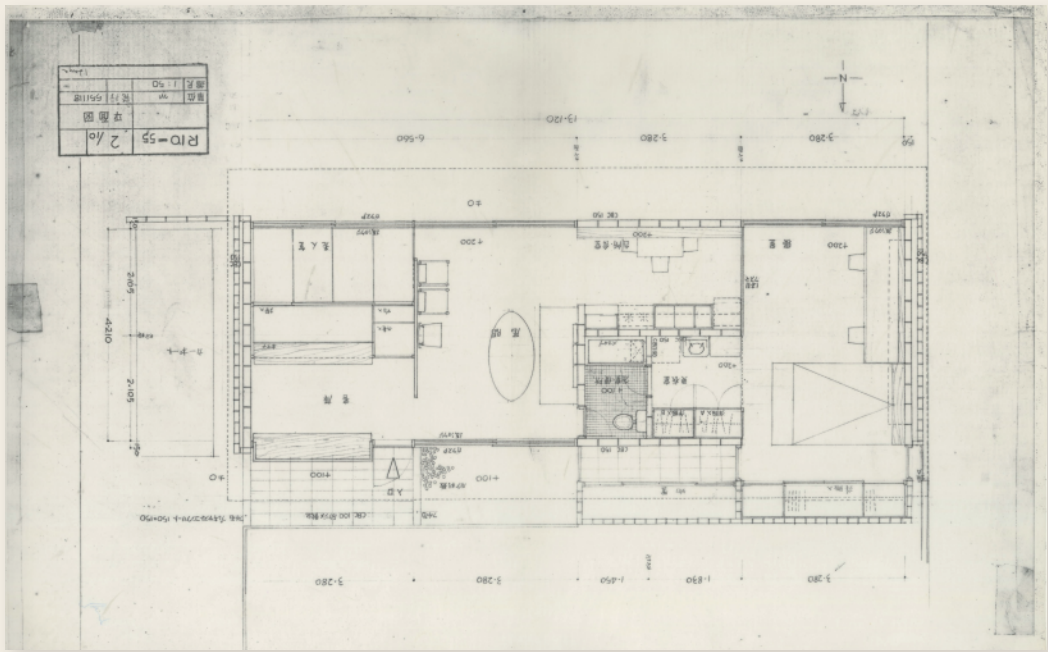


構造を検討したスケッチ

第1期のコンクリートブロック造に負荷をかけないようにした、片持ちの木造屋根。構造家・温品鳳治とともに、構造が何案も検討された。

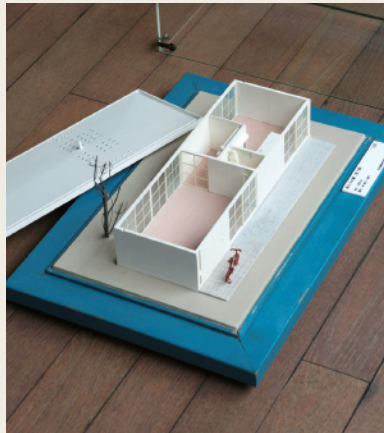
竣工時(1955年)の原図

※9年後の第1.5期の増改築も加筆されている



第1期の平面図

※左ページの図面に合わせて、
原図の天地を180度回転している。



第1期の模型

計画時につくられた石膏の模型。コンクリートブロックの躯体と水平なコンクリートスラブが明瞭に伝わる。植野石膏模型製作所によるものか。



第1期の写真

南側の庭から老人室と居間を見る。水平のコンクリートスラブが印象的。平屋の第1期の写真だが、撮影者は不明（写真提供／安田幸一）。

林夫妻による 竣工時の図面と 増改築時の図面

「私たちの家」の図面は、林昌二・雅子夫妻が所有しており、住宅とともに安田幸一さんに継承された。竣工時（1955年）の図面を見ると、最初のオリジナルは、4,210mm×13,120mmの矩形平面であったことがわかる。躯体はコンクリートブロック。躯体以外の部分は引き違い戸（「紙ショウジ」+「ガラス戸」）であり、開放的な造りになっている。

竣工から9年後に第1.5期ともいわれる増改築が行われるが、その増改築の設計図は、55年の図面に加筆されている。第1.5期には、北側への収納（「洋服入」+「物置」）の増築などが行われた。

78年には、大規模な増改築を経て第2期が竣工する。南側に大きなテラスや三角形平面の食堂と台所が増築されるとともに、2階がつくられている。また第1.5期に増築された収納部分は、水まわりスペースになり、反対にもととの浴室・トイレのスペースが納戸になった。第1期の図面のように、通常平面図は北を上にするが、第2期の図面では玄関を重視して南を上になっている。